

住友重機械グループ

環境・社会報告書 2008

Environmental Sustainability Report



Contents

| | |
|------------------------|----|
| 会社概要 | 1 |
| トップメッセージ | 2 |
| 住友重機械グループと 社会とのかかわり | 3 |
| 環境報告 | |
| 環境マネジメントシステム | 5 |
| 環境目標(中期計画)と実績 | 7 |
| 地球温暖化防止活動 | 9 |
| 循環型社会指向の活動 | 11 |
| 化学物質管理活動 | 13 |
| 製品を通して環境保全に貢献 | 15 |
| 環境会計 | 21 |
| 各製造所における環境負荷データ | 22 |
| グループ会社における環境負荷データ | 23 |
| 環境に対する取り組み | 24 |
| 社会性報告 | |
| 社会貢献活動 | 25 |

編集にあたって

住友重機械グループ(住友重機械工業株式会社およびグループ会社)は、2001年に「環境報告書」を発行し、2005年からは、社会的側面に報告範囲を広げた「環境・社会報告書」の発行を開始しました。本報告書は、環境省の「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」を参考にしました。

対象範囲

住友重機械工業株式会社およびグループ会社を報告対象としています。

対象期間

2007年4月1日～2008年3月31日

次回発行予定

2009年9月

会社概要

社名



住友重機械工業株式会社
Sumitomo Heavy Industries, Ltd.

創業

明治21年11月20日

設立

昭和9年11月1日

本社

東京都品川区大崎2-1-1 (ThinkPark Tower)

資本金

308億7,165万円

従業員数

連結14,408名 単独2,848名

売上高

連結660,769百万円
単独267,557百万円

住友重機械グループの主要事業内容

【標準・量産機械部門】

変減速機、プラスチック射出成形機、フィルム加工機、極低温装置、ステージシステム、封止プレス、レーザ加工システム、フォークリフト、精密鍛造品、鋳鋼品、防衛装備品、医療用加速器、イオン加速器、プラズマ成膜装置

住友ナコ マテリアル ハンドリング株式会社、株式会社セイサ、株式会社 SEN-SHI・アクセスカンパニー、住友重機械ハイマテックス株式会社、エス・エイチ・アイ プラスチックマシナリー株式会社、住友重機械ファインテック株式会社、住重フォーミング株式会社、住友重機械精密販売株式会社、住友重機械メカトロニクス株式会社、住重試験検査株式会社

Sumitomo Machinery Corporation of America(SMA)、Sumitomo (SHI) Cyclo Drive Germany, GmbH、住友重機械減速機(中国)有限公司、SHI Plastics Machinery, Inc. of America、Sumitomo(SHI) Plastics Machinery Mfg.(USA), LLC、Sumitomo(SHI) Plastics Machinery (America), LLC、Sumitomo(SHI) Cryogenics of America, Inc., Sumitomo(SHI) Cryogenics of America, Inc., Chicago Office

【環境・プラントその他部門】

発電設備、上下水処理施設、最終処分場浸出水処理施設、大気汚染防止設備、産業用排水処理設備、化学プラント向けプロセス設備、食品機械、ソフトウェア

住友重機械エンバイロメント株式会社、住重環境エンジニアリング株式会社、住重環境技術株式会社、住重プラントエンジニアリング株式会社、株式会社ライトウェル、株式会社イズミフードマシナリ、日本スピンドル製造株式会社

【船舶鉄構・機器部門】

船舶、海洋構造物、海洋開発機器、橋梁、鉄構構造物、圧力容器、攪拌槽、コークス炉機械

住友重機械マリンエンジニアリング株式会社、住重機器システム株式会社

【機械部門】

物流システム(自動倉庫、自動仕分機他)、パーキングシステム、鍛造プレス、運搬荷役機械(連続アンローダ、コンテナクレーン他)、タービン、ポンプ

住友重機械エンジニアリングサービス株式会社、住友重機械テクノフォート株式会社、新日本造機株式会社

【建設機械部門】

油圧ショベル、クレーン、道路機械

住友建機株式会社、日立住友重機械建機クレーン株式会社

持続発展可能な社会の実現に貢献する企業

住友重機械グループは、最も深刻な環境問題の一つである地球温暖化防止に貢献するため、2005年度から「地球温暖化防止活動」を開始しました。①電気使用量の削減、②用紙使用量の削減、③グリーン物流の推進、の各活動を「住友重機械グループ全社を挙げて徹底して取り組むことが企業の使命」と位置づけてグループ全体で取り組んでまいりました。

電気使用量の削減では、各製造所の必要な設備の更新・改造なども実施しましたが、最も重視したのは「全員参加による取り組み」であり、現場において「見える化」による無駄の排除や運用改善です。その結果、電気使用量は、2004年度を基準年として、3年目の2007年度で比較すると、全体として7.6%減少の成果を得ました。この間、売上高は27%増でしたので、それを勘案すればかなりの削減効果を出したことになります。

成果を上げた製造所では、増産対応などで削減が厳しい面もありましたが、力づくの設備導入などに多くを頼らず、現場の地道な活動を重ねた結果、目標を達成しました。また、用紙使用量およびグリーン物流についても、2007年度の目標を達成しました。

当社グループは、製品・生産活動を通して環境負荷を低減し、環境保全に貢献することを企業の使命の一つとして掲げています。これまでも製品の軽量化・小型化・省エネ化に努め、油圧ショベルLEGEST®(レジェスト)が「グッドデザイン賞」および「省エネ大賞」をダブル受賞しました。この他にも社会の様々なフィールドで環境と技術を調和させ、社会の要請に応じた高性能、高品質な製品を提供していきます。

生産活動では全製造所および主要グループ会社にISO14001マネジメントシステムを導入し、当社グループの環境中期計画の最終年度として、二酸化炭素の排出削

減、廃棄物のミニマム化、有害化学物質の削減・除去を継続的に推進し改善を図ってきました。また環境汚染予防の視点から環境リスクの回避に努めてきました。

当社グループは2008年度からの新中期経営計画である「グローバル21」においても、一流商品作りを推進しています。「地球温暖化防止活動」というCSR活動を組み合わせて発展させ、新たな一流商品を提供したいと考えています。

なお、地域社会の環境保全については、従来どおり地域と連携協議し、環境保護に努めてまいります。本報告書は2007年度版に引き続き、当社グループの環境に対する取り組みについて概要をまとめています。皆様のご意見、ご助言を賜り、今後の取り組みへの参考にさせていただければ幸いです。



代表取締役社長

中村 吉伸

住友重機械グループと社会とのかかわり

住友重機械グループの製品・技術は、人々の暮らしを支え、あらゆる産業分野の発展に役立っています。



住友建機(株)

① 油圧ショベル P.15



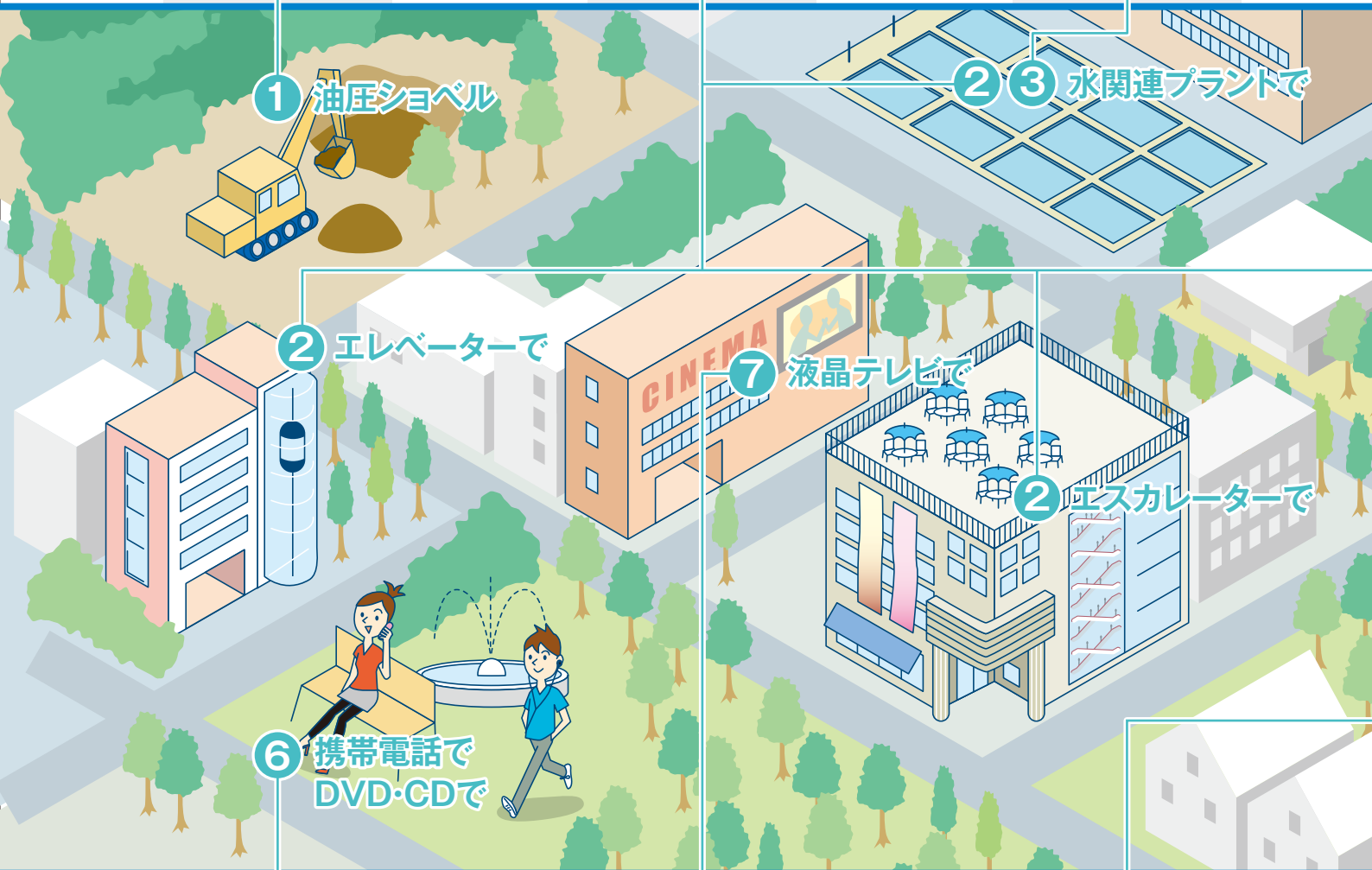
パワートランスミッション・コントロール事業部

② 減速機 P.17



住友重機械エンパイロメント(株)

③ 嫌気性排水処理システム P.19



① 油圧ショベル

② ③ 水関連プラントで

② エレベーターで

⑦ 液晶テレビで

② エスカレーターで

⑥ 携帯電話で
DVD・CDで

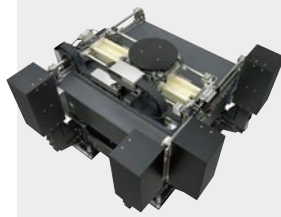
⑥ プラスチック射出成形機 P.17

プラスチック機械事業部



⑦ 液晶・半導体部品製造装置

メカトロニクス事業部



⑧ 鍛造プレス P.20

住友重機械テクノフォート(株)





環境保全に貢献する機器については
P15-20 “製品を通して環境保全に貢献”を参照下さい



量子機器事業部



精密機器事業部

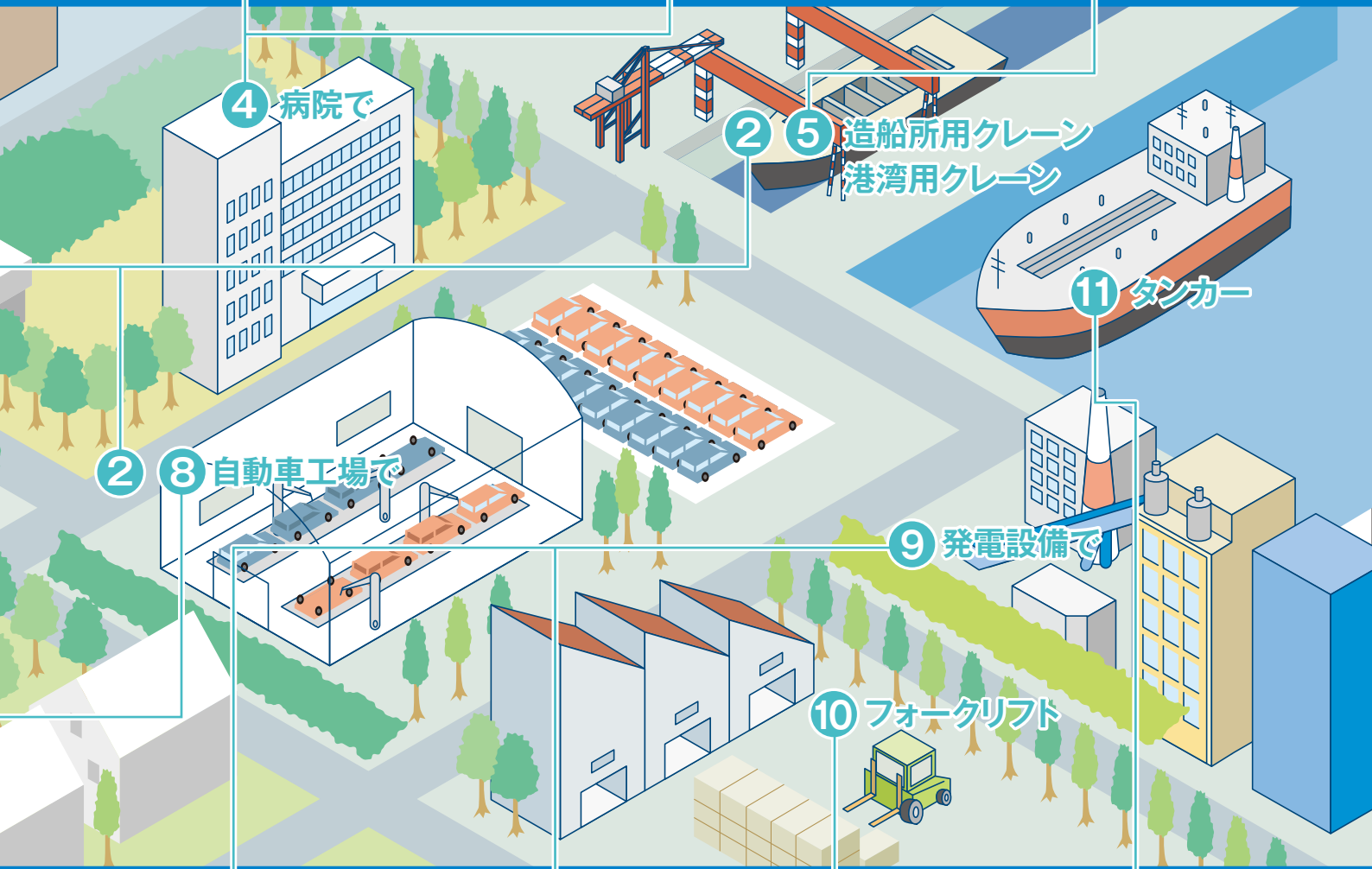


住友重機械エンジニアリングサービス(株)

④ PET診断用サイクロロン P.17

④ MRI用極低温冷凍機

⑤ ゴライアスクレーン



⑨ 循環流動層(CFB)ボイラ P.16

⑨ 蒸気タービン P.20

⑩ フォークリフト P.18

⑪ アフラマックス型タンカー

エネルギー環境事業部

新日本造機(株)

住友ナコ マテリアル ハンドリング(株)

住友重機械マリンエンジニアリング(株)



環境マネジメントシステム

住友重機械グループは、地球環境保護、地域環境保全、循環型経済活動が企業の社会的責務であるという認識のもとに、環境経営を推進しています。

住友重機械グループ環境方針

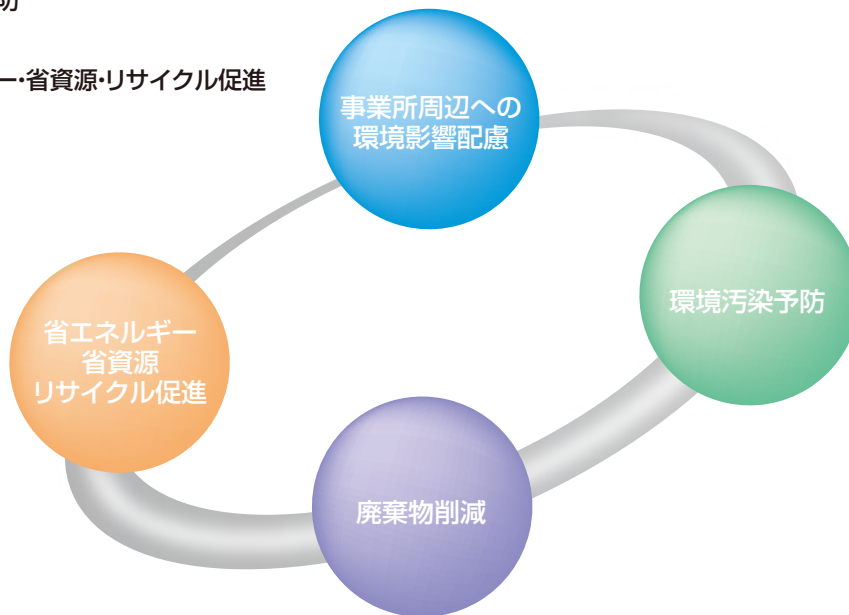
グループ全体が同じ目標のもと 環境保全に取り組みます

当社は、法規制遵守を中心とした環境リスク管理を発展させて、1997年9月「住友重機械環境方針」を制定し、事業に

伴う環境影響への配慮をはじめとする基本事項を明確にしました。さらに1999年11月「住友重機械グループ環境方針」を制定して、主要関係会社を含む住友重機械グループとして環境活動と環境マネジメントを推進しています。

住友重機械グループ環境方針

- 事業所周辺への環境影響配慮
- 環境汚染予防
- 廃棄物削減
- 省エネルギー・省資源・リサイクル促進



1999年11月1日制定

環境マネジメント

製品・生産活動に関するテーマを 環境プログラムに取り上げて取り組みます

各製造所(地区内グループ会社を含む)では、所長が環境方針を制定し、ISO14001規格に適合した環境マネジメントを製造所単位で進めています。まず、環境に影響を与える可能性のある要素をリストアップし、環境影響評価を行い、法規制などの遵守すべき事項を明確にします。そして環境活動の目標設定、環境プログラムの計画、実施、監査、評価、

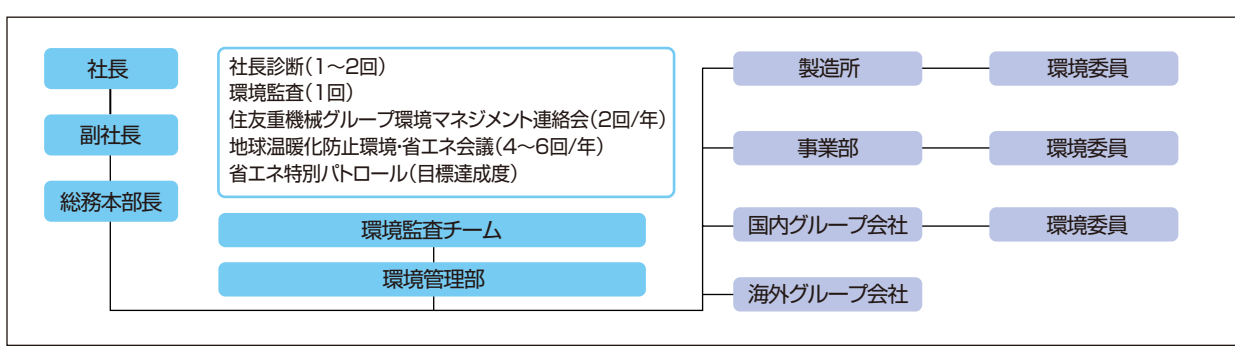
マネジメントシステムの改善、というPDCAを回しています。各製造所地区外のグループ会社では、社長が環境方針を制定し同様に実施しています。特に製品・生産活動に関するテーマを環境プログラムに取り上げて取り組んでいます。そして、マネジメントシステムを確実に実施し、改善していくために本社環境管理部による内部監査と外部審査機関による監査を年一回実施しています。また、海外工場(2007年度は中国)においても監査を実施しています。

環境マネジメント組織

「住友重機械グループ環境マネジメント連絡会」を通して、グループの方針の徹底と実施展開を図っています

環境活動を継続的・効果的に推進するために、当社の全製造所・事業本部および主要グループ会社の全てで、ISO14001の認証を取得しました。当社の全製造所・事業本部ではISO14001規格に適合した環境マネジメントシステムを、継続的改善に努めながら実施しています。各製造所地区内のグループ会社は、当該製造所の環境マネジメント組織の中で活動しています。他方、製造所地区

外のグループ会社は、独立した組織でISO14001環境マネジメントを当社と同様に実施しています。グループ全体のさらなる活動の発展・向上を目指して、総務本部長のもとに環境管理部を置き、環境マネジメントの企画・実施推進及び監査を行っています。また、「住友重機械グループ環境マネジメント連絡会」を通して、グループ方針の徹底と実施展開を図っています。特に、地球温暖化防止活動を重点課題として位置づけ、各製造所、グループ会社の専門家の育成や環境・省エネ会議、各地区の環境委員会を通して、地球温暖化防止活動を推進しています。



ISO14001 認証を取得した当社製造所、事業本部と認証範囲に組み込まれているグループ会社

| 当社製造所・事業部 | 承認範囲に組み込まれているグループ会社 | 取得年月 |
|--------------|--|----------|
| 田無製造所 | ● 住重プラントエンジニアリング(株) ● (株)住重エス・エヌビジネス ● 住重特機サービス(株) | 1998年8月 |
| 千葉製造所 | ● 住友建機製造(株) ● 建機エンジニアリング千葉(株) ● 住友建機(株) ● 日立住友重機械建機クレーン(株) ● 住友建機販売(株) | 1999年4月 |
| 横須賀製造所 | ● 住友重機械マリンエンジニアリング(株) ● 住重フォーシング(株) ● 住重横須賀工業(株) ● 住友重機械エンバイロメント(株)環境技術センター | 1999年2月 |
| 名古屋製造所 | ● 日立住友重機械建機クレーン(株) ● 住重富田機器(株) ● 住重テクノス(株) | 1999年1月 |
| 岡山製造所 | ● 住友重機械ファインテック(株) | 2000年3月 |
| 愛媛製造所(新居浜工場) | ● 住友重機械テクノフォート(株) ● 住友重機械エンジニアリングサービス(株) ● 住友重機械ハイマテックス(株) ● 住重プラントエンジニアリング(株) ● (株)住重テクノクラブ | 1999年11月 |
| 愛媛製造所(西条工場) | ● 住重機器システム(株) ● 住重試験検査(株) | 1999年2月 |
| エネルギー環境事業部 | ● 住重環境技術(株) | 2002年10月 |

ISO14001を単独で認証取得した国内グループ会社

| グループ会社 | 取得年月 |
|-----------------------|----------|
| 住友ナコ マテリアル ハンドリング(株) | 2000年3月 |
| 新日本造機(株) | 2002年2月 |
| (株)イズミフードマシナリ | 2002年6月 |
| (株)SEN-SHI・アクセリスカンパニー | 2002年10月 |
| 住重環境エンジニアリング(株) | 2002年10月 |
| 住友重機械エンバイロメント(株) | 2002年11月 |
| (株)ライトウェル | 2005年2月 |
| 日本スピンドル製造(株) | 2006年3月 |
| 日本電子照射サービス(株) | 2007年1月 |
| 住友重機械精機販売(株) | 2007年9月 |

ISO14001を単独で認証取得した海外グループ会社

| 海外グループ会社 | 取得年月 |
|---|---------|
| Sumitomo (SHI) Cryogenics of Europe, Ltd. | 2008年6月 |

環境目標(中期計画)と実績

住友重機械グループでは2010年度を最終目標年度とする第2次中期計画を策定し、環境負荷低減を進めています。

環境負荷の全体像 (住友重機械グループ)

事業活動と環境負荷の関連を定量的に把握し効果的な取り組みを推進しています

INPUT

エネルギー投入量



原油換算 **60,958** kℓ

水資源投入量

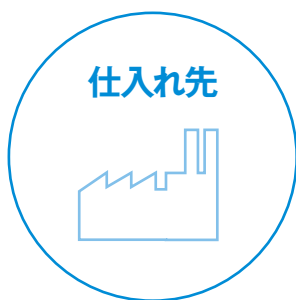


1,631 千m³

紙資源投入量



86,752 千枚(A4換算)



OUTPUT

CO₂排出量



9.19 万t

化学物質量



PRTR^{※1} 対象物質 **1,187** t

大気汚染物質排出量



VOC^{※2} **1,013** t

廃棄物発生量



総排出量 **33,881** t



リサイクル率 **93.0** %

※1 PRTR:環境汚染物質排出移動登録(Pollutant Release and Transfer Register)

※2 VOC:揮発性有機化合物(Volatile Organic Compounds)

2007年度の活動総括

継続的改善に取り組みます

2007年度は環境目標(中期計画2005年度～2007年度)に基づき計画を立案し達成に向けて活動しました。その結果は次の通りです。

- 目標達成項目は、グリーン物流の推進、用紙使用量の削減、水使用量の削減、PCB使用機器の全廃、ISO14001認証取得の拡大、連結環境マネジメントの対象範囲拡大です。
- 達成率70%以上の項目は、製造所・オフィスのCO₂排出量を削減、廃棄物の処分量の削減、ゼロエミッションの

達成、有機塩素系化学物質(オゾン層破壊の可能性がある)の排出抑制、VOC対象物質の排出量抑制、グリーン調達の取り組み推進です。

- 達成率70%未満の項目は、廃棄物の排出量の削減、有機塩素系化学物質(土壤汚染対策法の有害化学物質)の排出抑制、ISO14001の維持・更新です。2008年度からは第2次中期計画(2008年度～2010年度)に則り目標達成に努めます。

評価:◎目標達成 ○達成率70%以上 △達成率70%未満

| 指標 | 項目 | 2007年度計画 | 2007年度実績 | 評価 | 第2次中期計画 |
|--------------|---|--|---|--------|--|
| 地球温暖化防止 | ①製造所、オフィスのCO ₂ 排出量を削減 ・電気使用量の削減 | 電気使用量を2007年度までに2004年度比10%削減 | 電気使用量は2004年度比7.6%削減 | ○ | CO ₂ 排出量を2010年度までに2004年度比15%削減 |
| | ②グリーン物流の推進 ・輸送におけるCO ₂ 発生量の削減 | 2006年度基準で、2007年度に輸送原単位当たり2%削減(改正省エネ法は1%削減) | 輸送量3,156万トンキロ輸送原単位0.0204(t-CO ₂ /t) 2006年度比6%削減 | ◎ | 2006年度基準で、2009年度に輸送原単位当たり10%削減(改正省エネ法は1%削減) |
| 省資源、リサイクルの推進 | ①廃棄物の排出量および処分量の削減 | ・排出量24,300トン(2001年度比21%削減) ・処分量2,300トン(2001年度比74%削減) | 排出量33,881トン(2001年度比9.9%増) 処分量2,381トン(2001年度比72.9%削減) | △ ○ | ・排出量21,000トン(2001年度比32%削減) ・処分量2,000トン(2001年度比77%削減) |
| | ②ゼロエミッションの達成 | リサイクル率95%以上(グループ平均) | リサイクル率93.0% 95%以上達成6拠点(前年度5拠点) | ○ | ・全部門でリサイクル率95%以上 ・達成部門はゼロエミッションを目指す |
| | ③用紙使用量の削減 | 2005年度基準で全部門で15%以上削減 | 2005年度比17%削減(2006年10月よりスタート) | ◎ | 2005年度基準で40%以上削減 |
| | ④水使用量の削減 | 2005年度比13%以上削減 | 2005年度比14.4%削減 | ◎ | 2005年度比20%以上削減 |
| 環境汚染予防の推進 | ①有機塩素系化学物質の排出抑制(土壤汚染対策法、モンリオール議定書) | ・ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレンは2005年度比50%以上削減 ・オゾン層破壊物質HCFC-141bは20%以上削減 | 2005年度比 ・ジクロロメタン55.9%、 テトラクロロエチレン100%減、トリクロロエチレン30.3%増 ・HCFC-141b14.0%削減 | △ ○ | ・土壤汚染対策法の有害化学物質ジクロロメタン、トリクロロエチレンを全廃、テトラクロロエチレンは全廃継続 ・オゾン層破壊物質、HCFC-141b、HCFC-225共2006年度比50%以上削減 |
| | ②VOC対象物質(大気汚染防止法)の排出量抑制 | 塗料の溶剤(主としてトルエン、キシレン、エチルベンゼン)の排出量を2006年度比10%以上削減 | 2007年度取扱量1,013トン(2006年度1,090トン) | ○ | 塗料の溶剤(主としてトルエン、キシレン、エチルベンゼン)の排出を抑制...2010年度までに2006年度比30%以上削減 |
| | ③PCB使用機器の全廃...「PCBの適正な処理に関する特別措置法」 | ・高濃度PCB機器については、日本環境安全事業(株)からの処分通知受け後、適正に処分する ・低濃度については計画に基づき調査継続実施 | ・高濃度PCB機器について処分通知なし ・低濃度については調査継続 | ◎ | 高濃度、低濃度PCB機器とも全面使用禁止 |
| 環境配慮の製品拡大 | グリーン調達(原材料・部品の購入)の取り組み推進 | グリーン調達ガイドライン関係先へ配布し取り組みを推進する | [グリーン調達ガイドライン]に則り継続実施 | ○ | ・顧客要求に基づき、出荷製品への非含有保証に対応 ・サプライヤーからの禁止物質非含有保証品の納入実施 |
| 環境マネジメント | ①ISO14001の維持・更新 | 環境事故(法令違反)のゼロ化 | 口頭指示2件 | △ | 環境事故(法令違反)のゼロ化 |
| | ②ISO14001認証取得の拡大 | グループ会社2社の取得準備 | グループ会社1社取得および2社の取得準備活動を推進 | ◎ | グループ会社の取得計画とその推進 |
| | ③連結環境マネジメントの対象範囲拡大 | 中国3工場での環境管理度調査(アンケート形式)実施 | 中国3工場への現地監査および海外主要生産拠点6拠点(中国含む)の現状を調査票により調査 | ◎ | 主要海外生産拠点の監査実施とリスク調査実施によりリスクの回避と環境活動の取り組み促進 |

地球温暖化防止活動

住友重機械グループは、調達・生産・物流における事業活動の中で、二酸化炭素の排出削減を最重要課題として取り組んでいます。

二酸化炭素(CO₂)排出削減

CO₂排出量前年度比0.9%を削減

2005年8月に、「第1次住重グループ地球温暖化防止活動」をスタートしました。2007年度にCO₂の排出量を2004年度比10%削減する高い目標を設定し取り組みました。特にグループのエネルギー使用量の約80%を占める電力使用量の削減がCO₂の排出削減につながるとの考えに立ち、電気使用量の削減に注力しました。

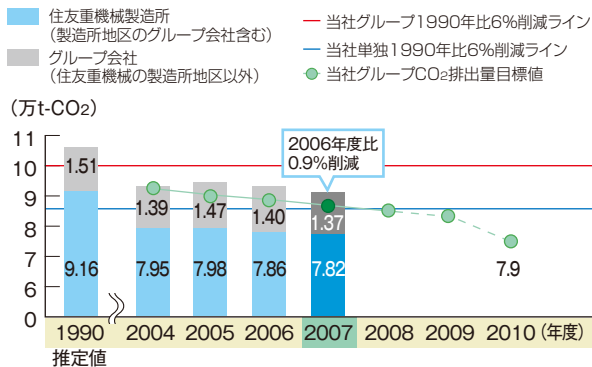
その結果、2007年度のCO₂排出量は大幅な生産増の状況下で、グループ全体で9.19万トン(2006年度9.27万トン)と前年度比0.9%低減しました。削減に注力した電気使用量の削減によるCO₂排出量は前年度7.35万トンから7.02万トンへと4.5%削減しましたが、他方、燃料による排出量は1.91万トンから2.17万トンへと13.6%増加し、電

気の削減効果が燃料の増加で相殺される結果となりました。

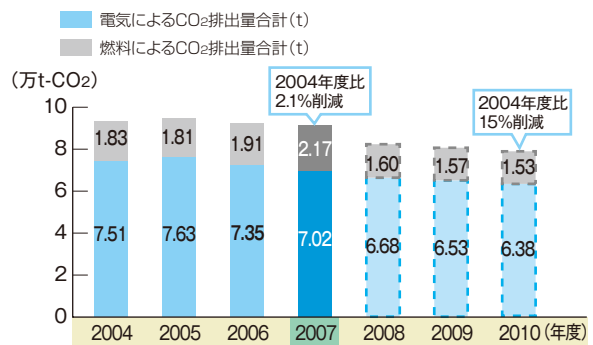
2008年度からは「第2次住重グループ地球温暖化防止活動」をスタートしました。CO₂排出削減を最重要課題と位置づけて、2004年度比2010年度に15%削減を目標として活動を推進します。

なお、京都議定書目標値と比べると、グループ全体では2007年度は1990年度比13.9%削減となりました。当社単独でも2007年度は1990年度比14.6%削減となり、いずれも国の約束目標6%を大幅に上回って達成しています。また、経団連自主行動計画に参加している(社)日本産業機械工業会については基準年度1997年度比、2007年度はグループで17.4%、当社単独で18.2%削減と、すでに工業会目標の12.2%削減を上回って達成しています。

CO₂排出量



燃料と電気によるCO₂排出量



電気使用量の削減

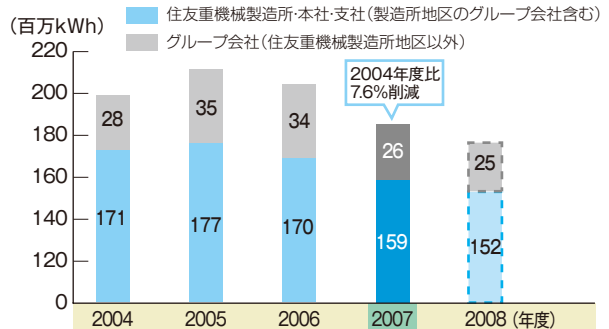
引き続き電気使用量の削減に取り組みます

2007年度に電気使用量を2004年度比10%削減する目標に取り組み7.6%削減となりました。

オフィス部門(本社・支社)はクールビズの推進、空調の温度と運転管理、照明の消灯、事務機器(パソコン、複写機)の省エネモードの設定等により大幅な削減を達成しました。製造所では、待機電力の削減や採光窓の拡大設置、照明の高効率化、消灯等に加えて省エネ設備への更新により大幅な生産量の増加を上回る削減結果となりました。引き続き電気使用量の監視モニターの導入で「見える化」

を図り、削減を継続的に拡大します。

電気使用量



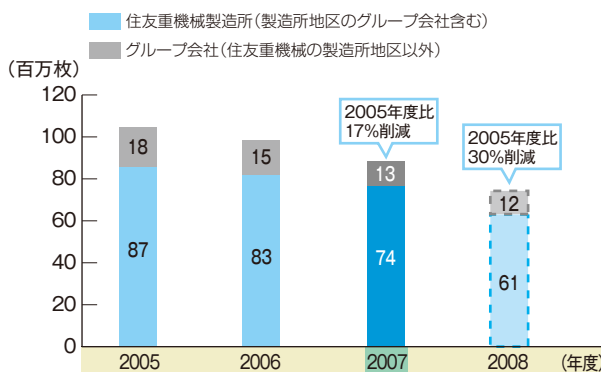
用紙使用量の削減活動

目標達成に向け基準年度より17%削減

用紙使用量の削減は、省資源化活動の一環であり、CO₂を削減し地球温暖化防止活動につながります。当社グループでは、2008年度までに2005年度比30%削減を目標に設定し、2007年度は、2005年度比15%削減の目標で取り組みを推進しました。

その結果、2007年度は2005年度比17%削減となりました。両面コピー、裏面利用などにより無駄を徹底排除し、会議でのペーパーレス化、製造部門における業務の仕組み改善による各種伝票、帳票類の削減によりさらに活動を推進します。

用紙使用量(A4換算)



グリーン物流の推進

各事業部に責任者を設け、 輸送の無駄排除、輸送の効率化に取り組みます

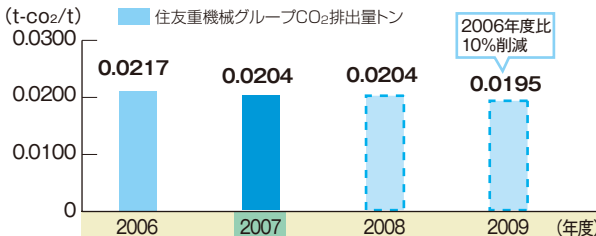
特定荷主(年間で3,000万トンキロを超える輸送を委託および自社輸送している荷主)として輸送における無駄の排除、輸送の効率化によりCO₂の削減に取り組んでいます。

2006年度を基準年度とし2009年度までの3カ年で輸送原単位(t-CO₂/t)で10%削減を目標に掲げて活動を進めています。2007年度の結果は輸送原単位0.0204(t-CO₂/t)となり、年初の目標2%削減を達成しました。2008年度はモーダルシフト等の対策をさらに強化し2006年度比6%以上の削減に取り組めます。

2007年度CO₂排出量(原単位)

| トンキロ (千トンキロ) | 燃料消費量 (kℓ) | CO ₂ 排出量 (t-CO ₂) | CO ₂ 排出量(原単位) (t-CO ₂ /t) |
|-----------------|---------------|---|--|
| 104,518 | 60,958 | 12,832 | 0.0204 |

グリーン物流(CO₂排出量:原単位)



グリーン調達

製品ライフサイクル全体での環境負荷低減に 向けて調達段階から取り組みます

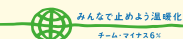
当社グループは製品、生産活動を通して環境負荷を低減し、環境保全に貢献することが企業の役割と認識して製品の軽量化・小型化・省エネ化に努め、高性能、高品質な社会の要請に合致した製品を提供してきました。より一層環境負荷を低減するためには調達の段階から廃棄処理までの全段階で環境負荷を低減することが必要です。

当社グループの調達は、環境に配慮した「住友重機械グループグリーン調達ガイドライン」を作成し、グリーン調達を継続推進しています。

Topics

全員参加の活動

当社グループ社員のひとりひとりが率先して自主的に取り組み、誰からともなく本問題解決に向けて自然と行動に移せるような企業風土を目指します。グループ会社を含めた全員参加の活動を推進しています。運動展開のシンボルの「エコ丸くん」のキャラクターを採用し、ポスターやシール、うちわなどにし、全員の意識高揚に役立てています。



循環型社会指向の活動

住友重機械グループでは循環型社会の構築のために、事業活動から排出される廃棄物などの再資源化・有効利用、排出の抑制などを行うとともに、事業活動を通じて環境負荷の低減に取り組んでいます。

環境負荷低減への取り組み

排出物の再資源化向上

持続発展可能な社会を構築するためには循環型社会を構築することが不可欠です。排出物は、右の3つのカテゴリーに分けて管理しています。事業活動の結果として排出される排出物をより少なくし、再資源化をより一層向上させることに重点を置き、目標を設定し環境負荷の低減に取り組んでいます。



2007年度の取り組み結果

「排出量の抑制および処分量の削減」について

廃棄物などの排出量は33,881トンと前年の27,969トンより21.1%増加しました。生産活動の効率化、無駄の排除により金属スクラップ他の排出量の抑制に努めましたが、それを上回る大幅な生産増により排出量は目標の2001年度比21%減の24,300トンを39.4%上回る増加となり、目標の達成には至りませんでした。

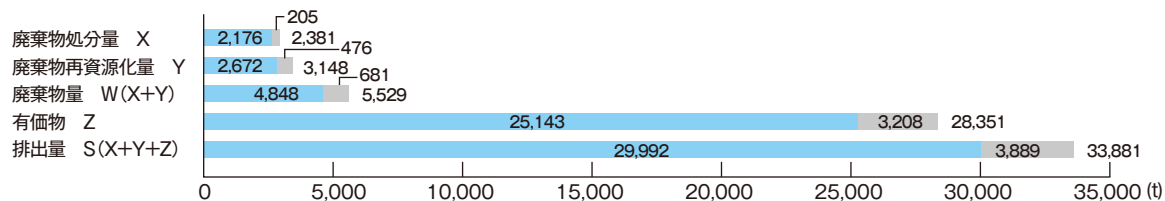
他方処分量は2,381トンと前年の3,007トンより20.8%と著しく低減しました。分別の一層の推進およびこれまで再資源化が困難であった鋳さい(主として廃鋳物砂)、廃塗料、汚泥、廃プラ、廃アルカリの再資源化が進み、基準年度の2001年度比72.9%となり2007年度の目標値74%に近づきました。

「ゼロエミッションの達成 ーリサイクル率の向上」について

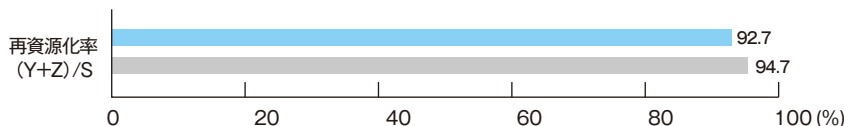
再資源化率(リサイクル率)は93.0%と2006年度の89.2%より著しく向上しました。リサイクル率95%以上の部門は2006年度の5部門(製造所3、グループ会社2)より6部門へと拡大しました。

2008年度は当社グループ全体で95%以上のリサイクル率を達成するために前述の鋳さい等のリサイクルをさらに推し進め、リサイクル率の向上を図り、2010年度までに全対象部門95%以上のリサイクル率を達成し、2007年度までに達成した部門はさらにゼロエミッションの達成を図ります。

2007年度における排出量

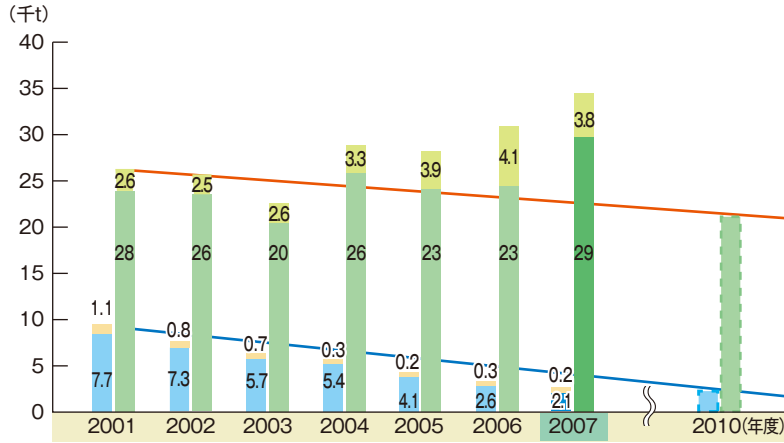


再資源化率(リサイクル率)



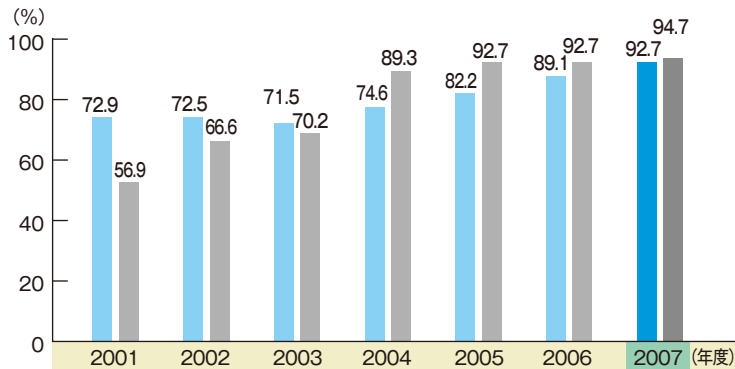
廃棄物等の推移

- 廃棄物処分量 住友重機械製造所(製造所地区のグループ会社含む)
- 廃棄物処分量 グループ会社(住友重機械の製造所地区以外)
- 廃棄物排出量 住友重機械製造所(製造所地区のグループ会社含む)
- 廃棄物排出量 グループ会社(住友重機械の製造所地区以外)
- 廃棄物排出量(S)目標ライン
- 廃棄物処分量(X)目標ライン



再資源化率の推移

- 住友重機械製造所(製造所地区のグループ会社含む)
- グループ会社(住友重機械の製造所地区以外)



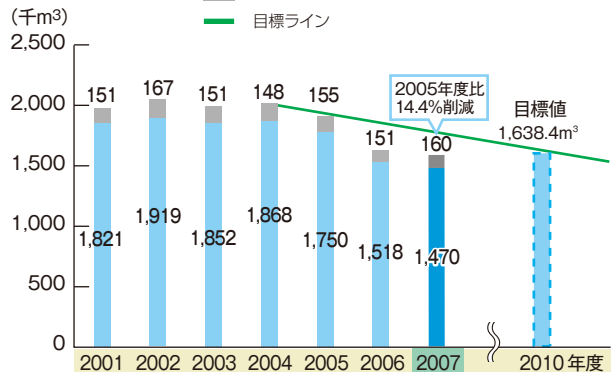
水使用量の削減

配管の見える化(地上化)により
水使用量2005年度比14.4%削減

資源としての水の重要性の認識が高まっています。水の使用量の低減化を図るために2010年度に2005年度比14%の削減目標を設定し取り組んでいます。2007年度は配管の見える化(地上化)により漏水の無駄の排除が着実に進みました。その結果、2005年度比14.4%削減となり、2010年度の削減目標14%を前倒しで達成することができました。

水使用量の推移

- 住友重機械製造所(製造所地区のグループ会社含む)
- グループ会社(住友重機械の製造所地区以外)
- 目標ライン



化学物質管理活動

環境汚染予防の推進を図るため次の3項目に重点を置き、化学物質を管理しています。

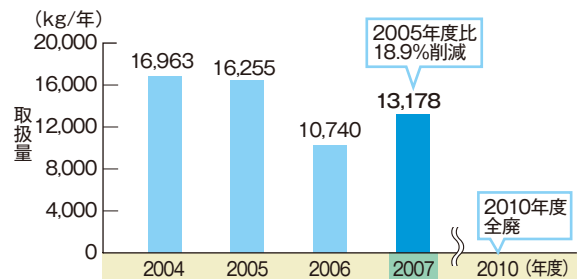
有機塩素系化学物質の排出抑制

2010年度の全廃を目指し 取り組んでいます

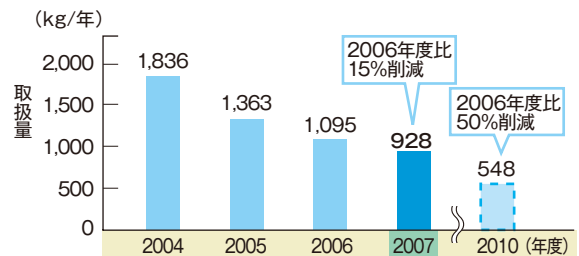
- ① 土壌汚染対策法の対象物質のジクロロメタン、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレンは2010年度までに使用全廃を目標として取り組んでいます。3物質の合計では2007年度は2005年度比18.9%削減しました。ジクロロエチレンは2005年度比55.9%減(前年度35.2%減)、テトラクロロエチレンは全廃(前年度81.9%減)と代替物質への転換が順調に進みました。他方、トリクロロエチレンについては30.3%増(前年度6.3%減)の結果になりました。原因は代替化が遅れたことおよび、大幅な生産増によるものです。トリクロロエチレンについては、代替物質への検討を早め目標達成を目指します。
- ② オゾン層破壊物質のHCFC-141b、HCFC-225は2010年度までに基準年度の2006年度比半減の排出抑制を目標として取り組んでいます。2007年度は2006年度比15%削減削減しました。HCFC-141bについては代替物質の使用の導入により

2006年度比14%排出量を削減しました。HCFC-225については引き続き代替物質の可能性を検討します。

土壌汚染対策法対象物質の排出量



オゾン層破壊物質の排出量



VOC対象物質の排出抑制

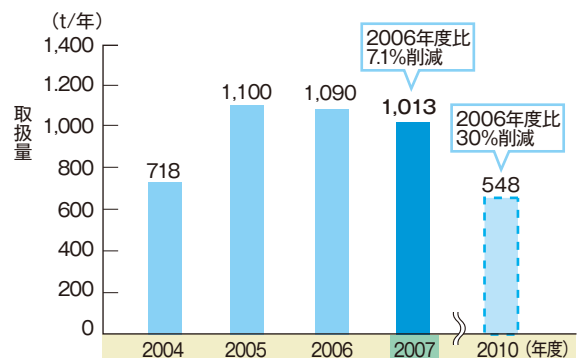
大型塗装設備への溶剤回収除去設備設置・拡大等により排出抑制に努めます

使用している対象物質の9割以上は塗料の溶剤中のトルエン、キシレン、エチルベンゼンによって占められています。2010年度までに2006年度比30%以上の排出量の削減を目標として取り組んでいます。

2007年度は法規制の対象となる大型塗装設備への溶剤回収除去設備の導入などにより2006年度より7.1%排出量が削減しました。2008年度の排出抑制策としては2007年度に引き続き溶剤回収除去設備の設置・拡大、および粉体塗装の拡大により、溶剤の削減を図り、排出抑制

に努めます。また、中期的には低溶剤塗料の検討を進め、塗料の溶剤の大幅削減を目指します。

VOC対象物質の排出量



PRTR物質の排出・移動量

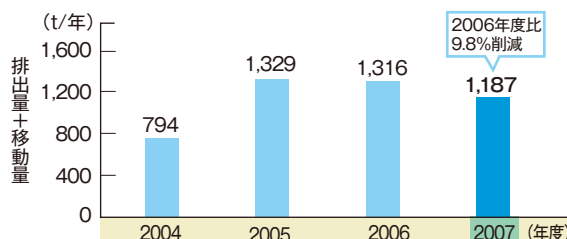
2007年度は2006年度比9.8%削減

PRTR対象物質の約9割は塗料(エポキシ樹脂)とその溶剤(トルエン、キシレン、エチルベンゼン)です。

2007年度は2006年度比9.8%削減しました。

品質を維持しつつ低溶剤塗料の適用を拡大するとともに溶剤回収除去設備の設置・拡大により排出・移動の削減に取り組めます。

PRTR物質の排出量・移動量



2007年度分届出量集計結果

(単位:kgs)

| 化学物質の番号 | 化学物質の名称 | 排出量+移動量 |
|---------|-------------------|-----------|
| 30 | ビスフェノールA型エポキシ樹脂 | 47,565 |
| 40 | エチルベンゼン | 237,345 |
| 43 | エチレングリコール | 9,513 |
| 63 | キシレン | 560,981 |
| 68 | クロムおよび三価クロム化合物 | 315 |
| 132 | 1,1ジクロロ-1-フルオロエタン | 908 |
| 145 | ジクロロメタン | 1,278 |
| 177 | スチレン | 1,965 |
| 200 | テトラクロロエチレン | 0 |
| 211 | トリクロロエチレン | 11,900 |
| 227 | トルエン | 284,375 |
| 230 | 鉛およびその化合物 | 2,262 |
| 231 | ニッケル | 92 |
| 304 | ほう素およびその化合物 | 3,904 |
| 311 | マンガンおよびその化合物 | 16,252 |
| 346 | モリブデンおよびその化合物 | 31 |
| ----- | 合計 | 1,187,230 |

排出量+移動量は、住友重機械とグループ各社の合計。

PCBの管理および使用機器の全廃

高濃度含有機器に続き低濃度含有機器も 2008年度調査完了を目指します

照明器具のPCB入り安定器とPCB入り変圧器の使用を2010年度までに全廃します。

高濃度含有機器は全て調査完了し、処理会社の日本環

境安全事業(株)に早期登録済みです。また低濃度含有機器は2008年度中に調査完了し、その後早期に処分できるように計画的に取り組を進めます。

製品を通して環境保全に貢献

住友重機械グループは、従来から環境保全に貢献する機器を提供してきました。

平成19年度「省エネ大賞」を受賞

住友建機(株)

燃費 20%改善
グッドデザイン賞受賞



油圧ショベル

省エネ大賞
GOOD DESIGN AWARD 2007-2008

当社グループの油圧ショベル「LEGEST」SH200-5型が、建設機械としては初めて経済産業省主催平成19年度「省エネ大賞」を受賞しました。また同機は、「グッドデザイン賞」も受賞しており、ダブル受賞の快挙となりました。

「省エネ大賞」受賞は建設機械では初めてのことです。油圧ショベルの汎用性の高さや、従来の機能が評価されただけでなく、新油圧システムと新型エンジンシステムの開発により、従来機比出力をアップしながら20%の燃費改善を達成したことが評価されました。

また、グッドデザイン賞では、その機能美が高く評価されました。受賞理由は、ホース類の処理が美しい印象的なアーム、前方視界の向上、大柄な欧米人から女性オペレーターに至るまで、あらゆる着座位置を確保できる最適性、扱いやすい操作系で作業効率の向上が図れる快適性などです。

燃費20%低減を実現させた新機能とは

新型エンジンシステムSPACE5と新油圧システムSIH:S(シーズ)搭載により、燃費20%の低減に成功しました。

SPACE5は、オフロード車排出ガス規制法の基準をクリアした、高い運動性能と環境性能を両立させた新型エンジンシステムです。エンジンを低回転で使用し、ファンスピードを下げクーリング性能をバランス良くさせることにより、10%の燃費低減をもたらします。


SIH:Sは、従来の油圧回路のあらゆる無駄を排除し、繊細な作業からスピーディで力強い作業までを高次元で実現し、作業量・燃料の常識を一新し、次世代を見据えた独自の新油圧システムです。電気システムにより油圧損失の低減を行い、燃費を10%低減させます。



燃費20%低減

One-SHI シナジーモデルにより 環境保全に貢献

当社グループの製品開発は、各事業部門のシナジー効果を活かし、環境保全と技術を調和させ、世界に通用する一流商品を提供します。



省エネ大賞、グッドデザイン賞のダブル受賞

油圧ショベル

組織横断的開発

メカトロ・コンポーネント

循環流動層ボイラ

発電用蒸気タービン

タービン用大型減速機

タービンブレード

リフティングマグネット

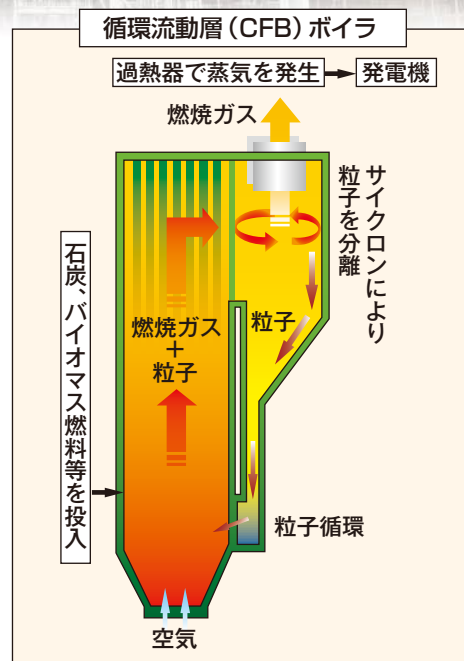
高効率・安定燃焼に適応。 廃棄物燃料などの再生可能エネルギーにも適応

エネルギー環境事業部

当社の循環流動層(CFB: Circulating Fluidized Bed)ボイラは、従来では高効率・安定燃焼が困難であった、低品位炭(高水分、低発熱量など)を含む幅広い炭種に適応できます。また近年では、木くずなどのバイオマス燃料や、化石燃料に置き換わる廃タイヤのような廃棄物燃料などの再生可能エネルギーにも適応範囲が広がり、地球温暖化対策、資源の有効活用に貢献しています。

<燃焼の仕組み>

循環流動層(CFB)ボイラは底部から空気を吹き込み、高温の粒子(燃料中の灰分からなる)と燃料を均一に浮遊混合させることで、様々な燃料を効率よく燃焼させます。さらに燃焼ガスとともに上昇する燃料粒子はサイクロンで分離し再度ボイラ底部に戻すことで燃焼効率を高めています。当社は、本ボイラで世界NO. 1の技術力とシェアを持つ米国フォスターウィラ社との技術提携を結んでおり、独特の工夫により安定した粒子の循環と燃焼灰の排出を実現しています。



駆動制御技術



粒子加速器技術



超低温技術





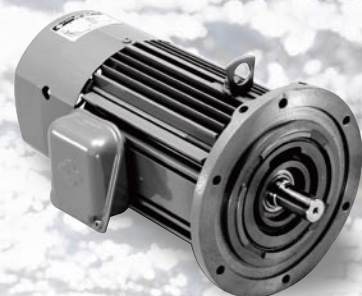
高グレード電磁鋼板の採用や、巻き線設計の改善により、消費電力を低減

高グレード電磁鋼板採用

高効率モータ

工場生産ラインや産業用ロボットなど、様々な駆動部分で幅広く使用されるモータ

パワートランスミッション・コントロール事業部



ハイポイドギヤの採用により、他の直交ギヤ形式より高効率、低騒音性に優れる

低騒音 省スペース

高効率ハイポニック減速機

コンベアやエレベータなどの駆動部に使用される直交ギヤモータ (モータに対して駆動軸が直角方向)

パワートランスミッション・コントロール事業部



駆動部を油圧式から電動式にすることで、電力使用量を大幅に削減

電力使用量削減

電動射出成形機

溶かしたプラスチックを金型に流し込み成形することで、プラスチック製品を作る装置

プラスチック機械事業部



装置の大きさを従来の約半分にする事により、病院における使用電力や廃棄物の削減に寄与

短時間検査を実現

超小型PET用サイクロトロン (HM-7)

がん診断の一つである、PET (陽電子断層撮影法) 検査の薬剤をつくる装置

量子機器事業部



複数のクライオポンプを個別に同時制御することにより、消費電力を削減

消費電力削減

クライオポンプ SICERA®

半導体製造プロセスなどに使用される超高真空ポンプ

精密機器事業部





カルヤランナと呼ばれる樹脂の通路を無くし、成形時の廃棄物発生量を削減 適用製品範囲の拡大

半導体封止装置

半導体ICチップを樹脂でパッケージングする装置

メカトロニクス事業部

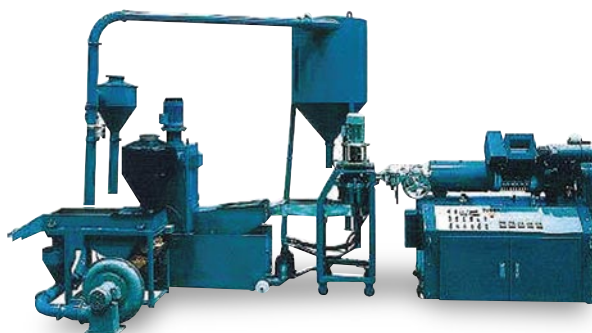


端材や不良品の再利用による廃棄物の低減 廃棄物低減に貢献

ペレット化再生装置

プラスチックフィルム成形時の端材などを、再度ペレット化して原料に戻す装置

住友重機械モダン (株)



急速に進歩する半導体技術に追従し、半導体素子の低電圧化、省電力化を実現 省エネ対策機器の採用

イオン注入装置

半導体製造プロセスなどに使用される、シリコンウェハにイオンを打ち込む装置

(株)SEN-SHI・アクセリスカンパニー



燃料費の低減 全モデル高性能・省エネルギーを実現

電気式フォークリフト

完全電動化のフォークリフト

住友ナコ マテリアル ハンドリング (株)

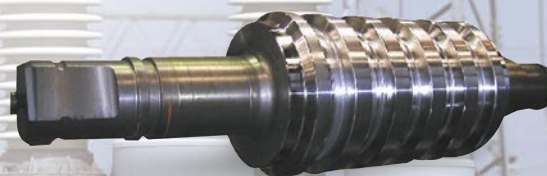


外殻層と芯材に別素材を用い、耐磨耗と経済性を両立 省資源・省エネ型高性能ロール

遠心ハイスロール

製鉄に使用される圧延用ロール

住友重機械ハイマテックス (株)





**産業廃棄物の再資源化による
環境負荷低減**

産廃に含まれる希少金属を精錬

住友W+E式ロータリーキルン

産業廃棄物を高温処理して、再資源化(金属回収、スラグ化)する設備

エネルギー環境事業部



**一つの装置で脱硫、脱硝、
脱DXNが可能のため、
従来設備よりエネルギー消費量を低減**

SOx、NOx、ダイオキシン等の排ガス処理に貢献



乾式脱硫脱硝装置

活性炭移動層を用い、SOx、NOx、ダイオキシン、ダスト、水銀等を処理できる排ガス処理設備

エネルギー環境事業部



**従来型よりも動力を約40%、
汚泥発生量を約60%削減、
反応槽の容積を半分にし、スペース効率化**

CO₂削減効果

バイオガスの回収可能



SAT型低濃度嫌気性排水処理設備

工場排水を浄化する装置

住友重機械エンバイロメント(株)



**優れた攪拌機能、耐久性による省エネ効果と、
容易なメンテナンス性によるコスト削減効果**

省エネ効果

メンブレンパイプ式超微細気泡散気装置「ミクラス®」

工場排水や下水の汚水に超微細な気泡を吹き込むことで、
効率よく汚水を浄化する装置

住友重機械エンバイロメント(株)



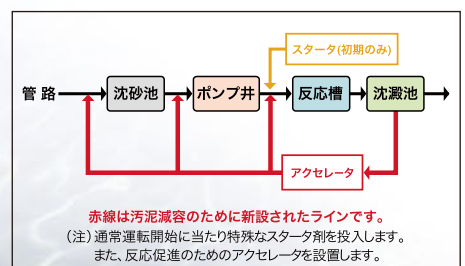
**従来の機械式や薬品使用に比べ、イニシャルや
ランニングコストを大幅低減**

年間 40%以上の汚泥減容効果

汚泥減容化システム「デイレス®」

排水処理設備から発生する余剰汚泥を、微生物の働きによって抑制するシステム

住重環境エンジニアリング(株)





加熱にはボイラーの蒸気ではなく、排蒸気を利用するため、**高省エネ効果**
高い省エネ効果とCO₂削減を実現



プレバポレーター
 パルプ生産時に発生する黒液を予備濃縮するためのプレート式液膜流下型蒸発缶

住重プラントエンジニアリング (株)



優れた制御方式で、**ランニングコスト低減**
電気使用量を従来機より6割削減

クリエコII
 温度を設定値の±1℃以内、湿度を±5%以内にコントロールできる空調管理装置

日本スピンドル製造 (株)



用途の低減した**重質油を軽質油に転換** **石油資源の有効活用**

コークドラム
 石油精製において、重質油を熱分解し、ガソリンなどの付加価値が高い軽質油を取り出す装置

鉄構・機器事業部



約6割の燃費改善、エンジン発電機を**メンテナンス費用・排ガスを削減**
小型化できるため、メンテナンス費用・排ガス量を削減

ハイブリッド電源装置「サイブリッド・システム」
 コンテナ用クレーンに搭載し、巻下げなどで発生するエネルギーを蓄積して巻上げ作業を補助する装置

住友重機械エンジニアリングサービス (株)



エア駆動、乾式に比べて騒音値が**1割削減**、**低騒音** **保全費用削減**
エアレス化によりランニングコストを削減

鍛造プレス用湿式クラッチ・ブレーキ
 回転軸を起動、停止するためのクラッチ・ブレーキ

住友重機械テクノフォート (株)



ゴミ処理施設の排熱利用発電設備 **バイオマス発電設備に貢献**

蒸気タービン
 自家発電設備用蒸気タービン。CO₂削減を目指したRenewable Energy発電(再生可能エネルギーを燃料とした発電)などに利用される

新日本造機 (株)



環境会計

住友重機械グループは環境の保全を効果的に推進するために、積極的な投資を行い、その効果の確認に努めています。

2007年度の環境会計

環境活動をはかるだけでなく、 推進するためのツールとしても活用します

環境会計は、環境活動をはかる尺度の一つとして位置づけられています。当社グループでは環境省の「環境会計ガイドライン2005年版」に基づいて環境会計を実施しました。2007年度に要した環境保全の全費用は、投資額と

費用額合わせて4,972百万円と2006年度の2,895百万円に比較して大幅に増加しています。これは電気使用量削減への積極的な取り組みによるものです。環境活動をより効果的に推進するためのツールとして環境会計の活用を図っていきます。

環境保全コスト(集計範囲:住友重機械グループ)

単位:百万円

| 分類 | 主な取り組みの内容およびその効果 | 投資額 | 費用額 | |
|---------------|---|--|-------|-----|
| (1) 事業エリア内コスト | 水質・大気・騒音・振動・化学物質・廃棄物等への適正な対応、エネルギー資源の消費削減、再資源化 | 2,563 | 679 | |
| 内訳 | ①公害防止コスト | 排水処理施設の改修、集塵・揮発性有機化合物(VOC)・アスベスト対策、微量PCB含有量検査、排水処理施設の運転管理、水質・排ガス・騒音・振動の測定、規制値の遵守 | 1,469 | 379 |
| | ②地球環境保全コスト | 太陽光発電、電力監視装置、省エネ投資、温度管理 | 970 | 117 |
| | ③資源循環コスト | 廃木材・廃プラスチック・古紙、廃油、生ごみのリサイクル、廃棄物置き場の整備、シンナーの再生、廃棄物の収集・運搬・処理・処分・廃棄物の削減 | 123 | 183 |
| (2) 上・下流コスト | 粉体塗装、木枠梱包からパレターナ(再使用) | 86 | 1 | |
| (3) 管理活動コスト | ISO14001維持管理業務、教育(一般、特定、審査員、内部監査員)、実施計画監視、定期審査受審、緑地の拡大、緑地の維持管理、PRTR把握、VOC測定 | 11 | 130 | |
| (4) 研究開発コスト | 都市ごみ・産廃の焼却・ガス化、排ガス処理装置の開発、灰溶解炉装置の開発、上下水設備の開発、サイクロ・減速機の低騒音化、新型チューブ熱交換器の開発 | 259 | 697 | |
| (5) 環境損傷対応コスト | 大気汚染負荷量賦課金、地域企業で負担する緑地および公害補償負担金 | 0 | 546 | |

単位:百万円

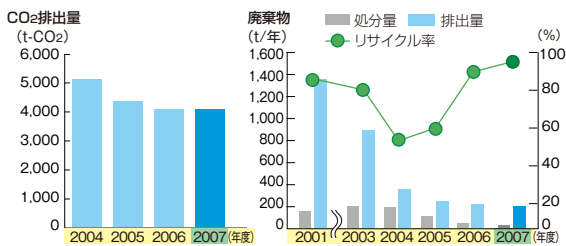
| 項目 | 内容等 | 金額 |
|-----------------|--|-------|
| 当該期間の投資額の総額 | 排水処理施設の改修、集塵設備の設置、揮発性有機化合物(VOC)処理設備の設置、省エネルギー投資 | 2,919 |
| 当該期間の費用額の総額 | 廃棄物のリサイクル・収集・運搬・処理・処分、微量PCB含有量検査、排水処理施設の運転管理、水質・排ガス・騒音・振動の測定、ISO14001維持管理業務、教育、実施計画監視、定期審査受審 | 2,053 |
| 当該期間の環境保全コストの総額 | | 4,972 |

製造所における環境負荷データ

住友重機械の製造所（製造所地区のグループ会社含む）における環境負荷データです。

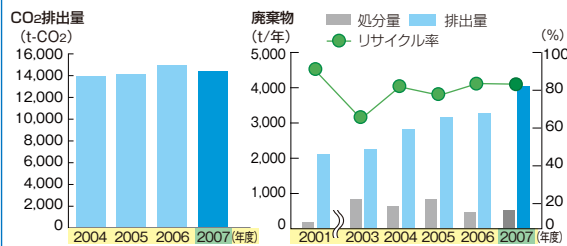
田無製造所

■1939(昭和14)年開設 ■ISO14001(1998年8月取得)
 ■敷地面積: 43,218m² ■建屋面積: 14,296m²
 ■主要製品: 防衛装備品、極低温装置



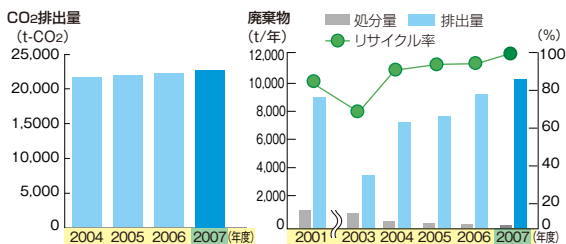
千葉製造所

■1965(昭和40)年開設 ■ISO14001(1999年4月取得)
 ■敷地面積: 294,600m² ■建屋面積: 78,895m²
 ■主要製品: プラスチック加工機械、金型、建設機械



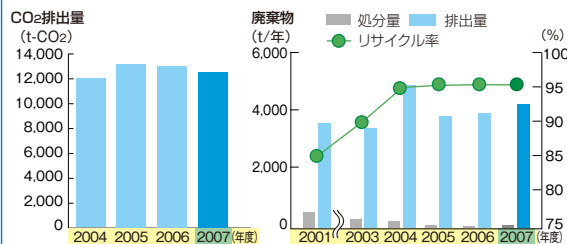
横須賀製造所

■1971(昭和46)年開設 ■ISO14001(1999年3月取得)
 ■敷地面積: 523,000m² ■建屋面積: 166,970m²
 ■主要製品: 船舶、レーザ加工システム、半導体製造装置(モールド装置)、精密鍛造品、ステージシステム、システム制御装置、橋梁、鉄構



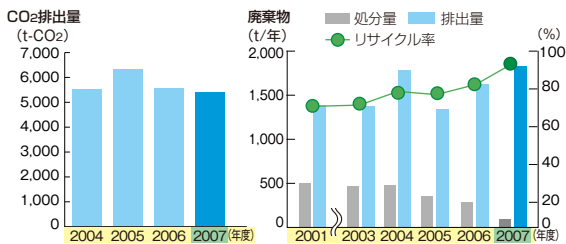
名古屋製造所

■1961(昭和36)年開設 ■ISO14001(1999年1月取得)
 ■敷地面積: 241,000m² ■建屋面積: 46,000m²
 ■主要製品: 変速機、ギヤードモータ、インバータ、建設機械



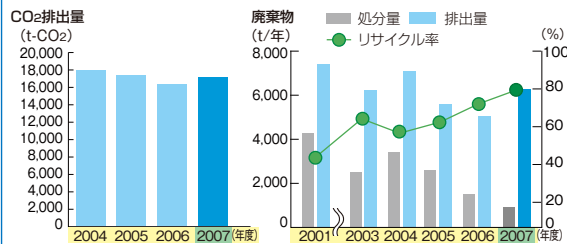
岡山製造所

■1948(昭和23)年開設 ■ISO14001(2000年3月取得)
 ■敷地面積: 425,000m² ■建屋面積: 96,625m²
 ■主要製品: 小型ギヤモータ、ギヤボックス、ステージシステム、工作機械



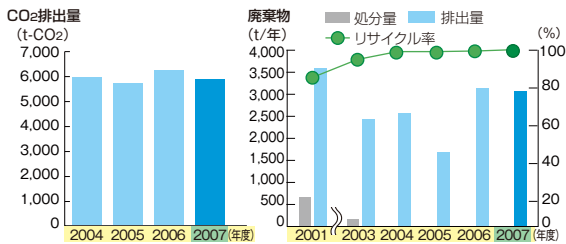
愛媛製造所(新居浜工場)

■1888(明治21)年開設 ■ISO14001(1999年11月取得)
 ■敷地面積: 418,000m² ■建屋面積: 198,000m²
 ■主要製品: 加速器、成膜装置、機械式駐車場、鍛圧機械、運搬機械



愛媛製造所(西条工場)

■1973(昭和48)年開設 ■ISO14001(1999年2月取得)
 ■敷地面積: 535,000m² ■建屋面積: 48,000m²
 ■主要製品: 橋梁、鉄構、圧力容器、攪拌混合器

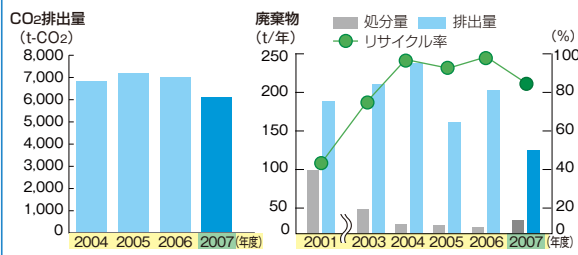


グループ会社における環境負荷データ

グループ会社(住友重機械の製造所地区外)における環境負荷データです。

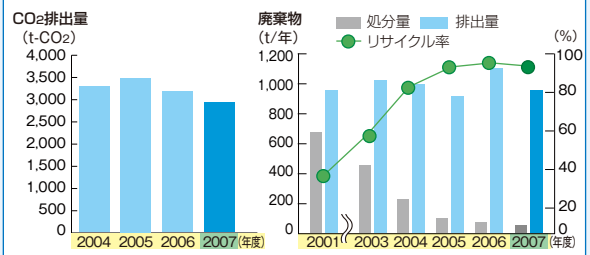
(株)SEN-SHI・アクセリスカンパニー

所在地 〒158-0097
東京都世田谷区用賀四丁目10番1号SBSタワー9階
従業員数 477名
事業内容 イオン注入装置等の半導体製造装置の製造、販売



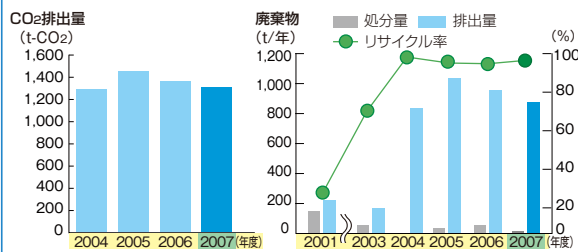
新日本造機(株)

所在地 〒141-6025
東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower
従業員数 368名
事業内容 蒸気タービン、ポンプの製造販売



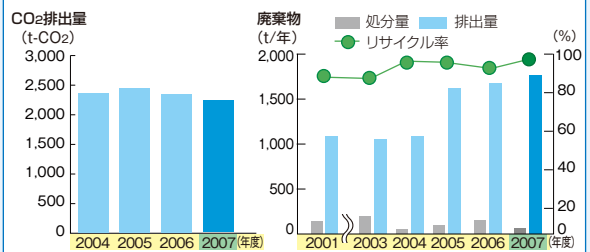
日本スピンドル製造(株)

所在地 〒661-8510
兵庫県尼崎市潮江4丁目2番30号
従業員数 320名
事業内容 産業機器、環境機器、建材の製造、販売



住友ナコ マテリアル ハンドリング(株)

所在地 〒474-8555
愛知県大府市大東町2-75
従業員数 730名
事業内容 フォークリフトおよび物流機器の製造、販売



環境に対する取り組み

住友重機械グループは地球環境保護を企業の使命と考え、地球温暖化防止活動に取り組みます。

住友重機械グループの取り組み

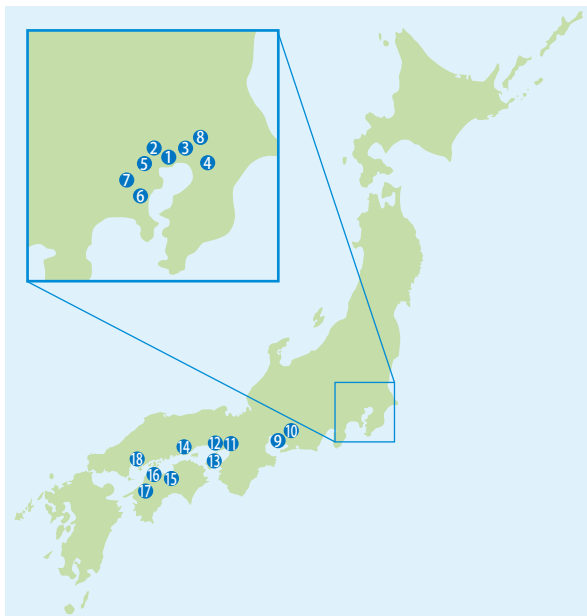
環境マネジメントシステム導入を推進、グループとして地球温暖化防止活動に取り組みます

当社では、安全担当部門、設備部門あるいは総務部門が、労働安全衛生および環境関係の法令・条例や協定の遵守を推進してきました。そして1990年代に入り、企業活動を通して環境保全に貢献するために、各製造所に環境管理部門を設置し、環境マネジメントシステムを導入し積

極的に活動を展開してきました。さらに1999年には住友重機械グループ環境方針を制定し、グループとして活動を展開しています。

また、2005年8月に地球温暖化防止への取り組みを住友重機械グループとして宣言し地球温暖化防止に積極的に取り組んでいます。

国内環境マネジメントネットワーク (ISO14001 認証取得事業者及び関係会社)



- ① 本社
新日本造機(株)
住友建機(株)
- ② 住友重機械エンパイロメント(株)
- ③ (株)ライトウェル
- ④ 千葉製造所
住友建機製造(株)
- ⑤ 田無製造所
- ⑥ 横須賀製造所
住友重機械マリンエンジニアリング(株)
住重フォーシング(株)
- ⑦ (株)SEN-SHI・アクセリスカンパニー
- ⑧ 日本電子照射サービス(株)
- ⑨ 名古屋製造所
日立住友重機械建機クレーン(株)
- ⑩ 住友ナコ マテリアル ハンドリング(株)
- ⑪ 住友重機械精機販売(株)
- ⑫ 日本スピンドル製造(株)
(株)イズミフードマシナリ
- ⑬ (株)イズミフードマシナリ(淡路工場)
- ⑭ 岡山製造所
- ⑮ 愛媛製造所(新居浜工場)
住友重機械テクノフォート(株)
住友重機械エンジニアリングサービス(株)
住友重機械ハイマテックス(株)
- ⑯ 愛媛製造所(西条工場)
- ⑰ (株)SEN-SHI・アクセリスカンパニー
愛媛製造所
- ⑱ 新日本造機(株)呉製作所

環境保全活動のあゆみ

| | |
|-----------|---|
| 1992年 1月 | 地球環境委員会設置 (オゾン層破壊物質対策、廃棄物・エネルギー・リサイクル対策、洗浄用特定フロン等全廃) |
| 1993年 10月 | 「住友重機械の環境保護活動計画」策定 |
| 1994年 4月 | 技術本部環境管理グループ発足 |
| 1997年 4月 | 環境マネジメント規程制定 |
| 6月 | 組織変更により業務本部環境管理部に改編 |
| 9月 | 「住友重機械環境方針」を制定 |
| 1998年 8月 | ISO14001 のマネジメントシステムの審査登録開始 |
| 1999年 11月 | 「住友重機械グループ環境方針」を制定 |
| 2000年 2月 | 住友重機械全製造所で審査登録完了 主要グループ会社 ISO14001 のマネジメントシステムの審査登録 住友ナコ マテリアル ハンドリング(株)、新日本造機(株)、(株)イズミフードマシナリ、(株)SEN-SHI・アクセリスカンパニー、住重環境エンジニアリング(株)審査登録完了 |
| 2002年 11月 | 水環境事業部・エネルギー環境事業部、(株)ライトウェル 審査登録完了 各製造所、事業部、主要グループ会社は目的、目標を立て、実施計画に則り環境活動を推進 |
| 2005年 4月 | 組織変更により総務本部環境管理部に改編 |
| 8月 | 「地球温暖化防止」住友重機械グループで取り組み宣言 |
| 2006年 3月 | 日本スピンドル製造(株)審査登録完了 住友重機械グループとして主要対象部門全て審査登録完了 |
| 2007年 1月 | 日本電子照射サービス(株)審査登録完了 |
| 9月 | 住友重機械精機販売(株)審査登録完了 |
| 2008年 6月 | Sumitomo (SHI) Cryogenics of Europe, Ltd. 審査登録完了 |

社会貢献活動

住友重機械グループはそれぞれの地域に根ざした企業を目指して、従業員が主体となって、各地域に役立つ社会貢献活動を考え、実践しています。

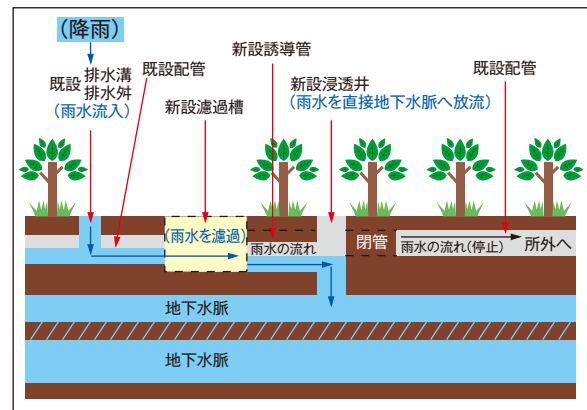
地域貢献活動

地域活動～「発想の森」一般開放～

雨水浸透管を設置し、地盤沈下を防止します

田無製造所に「発想の森」と名付けて一般開放している区画があります。広さ約1,400坪の森は単に開放するだけではなく、森の運営を地元福祉施設に依頼し、落ち葉から作る堆肥の販売や自動販売機による収益を提供しています。車椅子でも通れる遊歩道やベンチを設置し、誰にでも親しみやすい場所となっています。この発想の森に、雨水浸透管を設置しました。現在製造所内の緑地以外に降った雨水の多くは埋設の雨水管を経由して近隣の河川に放流させています。そのため、地下水の減少につながる可能性があり、結果として地盤沈下が発生する可能性も考えられます。また世界的な環境問題となっている地球温暖化が原因と思われる想定外の局地的な集中豪雨等により近隣地区でも住宅地での浸水被害が発生しています。これらの問題を解決する一助とするために、行政とも協議し雨水を地中に還元する雨水浸透管を設置しました。

雨水浸透管工事後図



「造船創業110周年 感謝の夕べ」を開催

旧・浦賀船渠(株)が創業110周年を迎えました

横須賀製造所では2007年、当社グループ船舶部門の前進である旧・浦賀船渠(株)が創業110周年を迎えました。これを記念して2007年10月によこすか芸術劇場において「造船創業110周年感謝の夕べ」を開催しました。中村社長からの招待客への挨拶と榎本大進氏のヴァイオリンコンサートで横須賀市民の皆様へ感謝の意を表しました。



製造現場での職場体験

職場体験、工場見学を実施しました

地域貢献の一環として若い世代への支援を積極的に図っています。学校の授業では経験できない製造現場での体験としてインターンシップ、職場体験、そして工場見学の受け入れを行っています。2007年度は延べ養護学校2校、小学校3校、中学校8校、高等学校18校、高等専門学校3校、短大1校、大専校5校の総数612名を受け入れました。

(写真は千葉製造所における小学生の工場見学与西条工場での中学生の売店での職場体験です。)



地域への清掃作業

2007年度も各製造所周辺の清掃を行いました

各製造所は地域の清掃作業に定期的に取り組んでいます。独自に行う製造所周辺の清掃や愛媛県西条市の高須海岸、神奈川横須賀市の鷹取川での清掃活動などの自治体主催の海岸や河川敷の清掃への参加、また参加人員も十数名からおよそ百名で実施される場合など場所も規模も様々に取り組んでいます。

(写真は愛媛製造所新居浜工場における工場周辺の清掃風景です。)

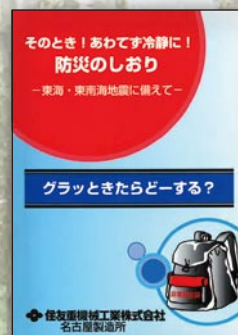


防災対策

地域の一員として各製造所で災害発生時の対策に取り組んでいます

田無製造所、名古屋製造所では地元市と災害発生時に市の要請に応じ生活用水を提供する協定を結んでいます。また各製造所は防災対策に積極的に取り組んでおり、協定の他にも地域の一員として災害発生時には自衛消防隊の応援出動、備品の提供など各製造所で災害発生時の対策に取り組んでいます。

(写真は製造所で配布した防災のしおりの一例)



 **住友重機械工業株式会社**
<http://www.shi.co.jp>

お問い合わせ先

環境管理部

〒141-6025 東京都品川区大崎2-1-1 (ThinkPark Tower)

TEL (03)6737-2325 FAX (03)6866-5104

